



「ひろしま平和の歌」を合唱する国連合唱団のメンバーら

国連職員ら市民と合唱

6日の平和記念式典には、国連本部職員らでつくる「国連合唱団」から13カ国25人が初めて参加し、中高生や市民ら約300人の合唱隊とともに「ひろしま平和の歌」の歌声に乗せて、平和への祈りを

爆の悲劇は想像を超えていた」と痛感。原爆投下70年の今年、式典参加を希望していた。合唱団の式典参加を企画した広島県合唱連盟の谷千鶴子理事長(71)は「国連職員が市民と原爆の悲劇を共有するのは意義深い」と話していた。

祈りを歌声に

新たにした。

と一緒に追悼し、交流できた。

ジュニア合唱団と交流した後、松井一実広島市長を表敬訪問。6日夜に広島市内、9日夜に長崎市内で「平和と希望のコンサート」を開く。

合唱団は国連事務総長の非公式親善大使として1947年に結成。2012年5月に広島でコンサートを開いた

広島から平和と希望のメッセージを伝える一助になれば非常に光栄だ」と話す。

合唱した「ひろしま平和の歌」は47年8月、第1回「広島平和祭」の際に歌詞を公募し作曲。その後、50年を除いて毎年歌い継がれている。

際、被爆者の体験を聞き、原爆資料館を訪れたことで「原

団に参加した浅香有紀さん(34)は「被爆の教訓を世界